

■■■ 防災推進センターシンポジウムを開催しました ■■■

令和2年12月12日（土）に、高知大学防災推進センターシンポジウム「防災とSDGsー持続可能な開発に資する防災とは」を初めてオンラインにより開催しました。

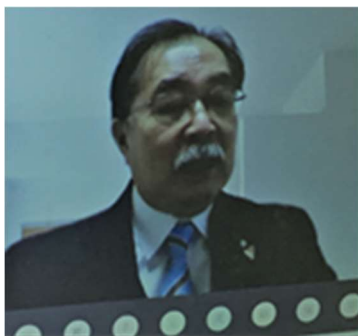
高知大学では地域を創生することを目標に掲げ「地域の持続可能な開発」を意識した活動を行っており、本シンポジウムでは高知大学の行う防災に関する取組とSDGsの関係について事例を挙げて紹介し、本学の防災に関する取組の将来像を探りました。

櫻井学長による開会挨拶の後、笹原防災推進センター長による趣旨説明が行われ、第一部では、高知大学の行うSDGsを意識した防災に関する取組について本学の4名の教員より、①感染症流行時の避難所の課題（西山謹吾教授）、②木造住宅の耐震化と木造ビルの開発（野口昌宏講師）、③過去の気候変化から予測する温暖化進行後の地球環境（長谷川精講師）、④持続可能なカツオの利用を目指した取組（吉用武史准教授）について紹介しました。

第二部では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）山田浩貴調査役から、①SDGsと科学技術イノベーションの関連性について、本学UBC（ユニバーシティ・ブロック・コーディネーター）梶英樹講師から、現場サイドの視点から②大学と地域の連携実践の事例とSDGsの各指標を基にした活動についての基調講演があり、引き続き全講演者によるパネルディスカッションが行われました。様々なコミュニティを意識しつつ、防災を切り口に自助・共助・公助について考察し、防災や災害に関わる本学の研究は集落単位の地域課題からグローバル課題や地球規模を視点に非常に多彩な空間単位で活動を行っており、各研究者がどの空間単位で活動を行っているか、また時間単位を意識しながら活動することの大切さが議論の結果示されました。笹原センター長からは今後も防災推進センターとして異なる空間単位や時間単位での視点と、連携を意識した活動を行っていききたいと述べられました。

最後に本家研究・評価・医療担当理事から、防災とSDGsはどちらも科学技術とヒューマンコミュニティの総合力が必要との閉会挨拶で締めくくられました。

なお、本シンポジウムは、内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム 地域産学官社会連携分科会（事務局：科学技術振興機構）の活動及び、国立大学フェスタ2020の一環として開催しました。



櫻井学長による開会の挨拶



笹原防災推進センター長（左）と山田 JST 調査役



パネルディスカッション



本家理事による閉会の挨拶